

5. 水環境保全のための今後の取組 (2)水質事故への対応

現 状

【水質事故の増加】

- ・水濁法に基づく事故(水濁法の特定事業場等での事故)届出件数は10年間で約2倍に増加
- ・全国一級河川における水質事故(水質異常等)は10年間で約3倍に増加
- ・水質汚濁に関する公害苦情(約9,000件)の3分の1以上は「流出・漏洩」が原因 等

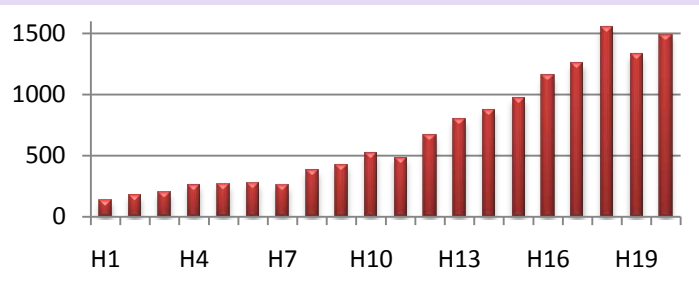


図 全国一級河川における水質事故(件数)
出典:国土交通省「全国一級河川の水質現況」

【水質事故原因の多様化】

- ・水濁法上の特定事業場等以外からの流出・漏洩事故の発生
- ・水濁法上の有害物質以外の化学物質による水質事故の発生

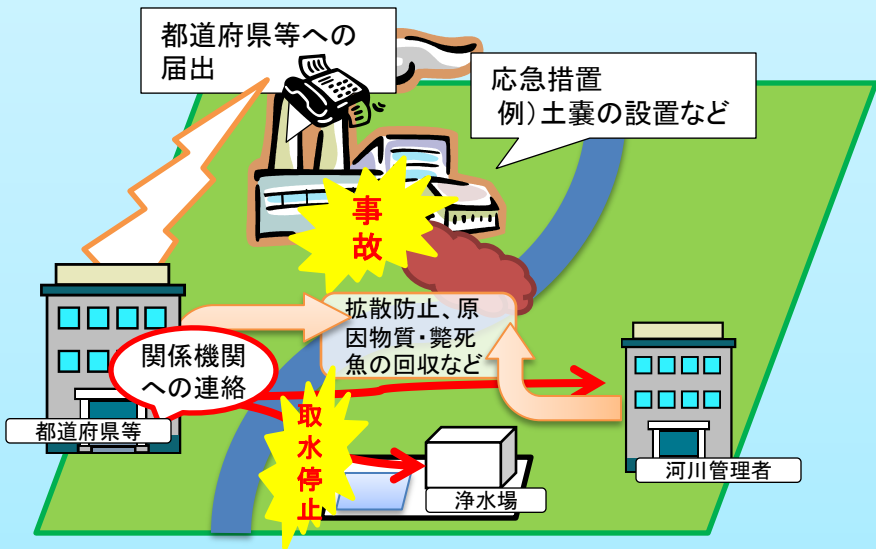
- 住民からの通報等を契機とするため対応に遅れ
- 汚染が拡散した後の原因究明は困難
- 有効な再発防止措置が困難

今後の取組

【事故対応・原因究明の迅速化】<緊急的な対応> ～事故原因者からの届出の促進～

- ・現行の有害物質、油以外の項目であっても、既に排水規制対象となっている生活環境項目など、人の健康又は生活環境の保全上の支障となる物質・項目等については届出対象とするよう拡大
- ・水濁法対象事業者以外への届出義務者の拡大

※中央環境審議会 大気環境・水環境合同部会
公害防止取組促進方策小委員会において検討



【事故の発生抑制・事故の拡大防止】<恒久的な対応> 事故の発生を抑制する方策、事故の環境への影響を最小限に抑えるための措置を検討

5. 水環境保全のための今後の取組 (3)閉鎖性水域における水質改善(湖沼)

現 状

湖沼の水質は徐々にではあるが、良くなっているものの、国民の実感に合った、地域の望ましい湖沼には至っていない。

①生態系の劣化:植物プランクトン種の変化、在来種の減少、水草の異常繁茂、漁獲量の低下

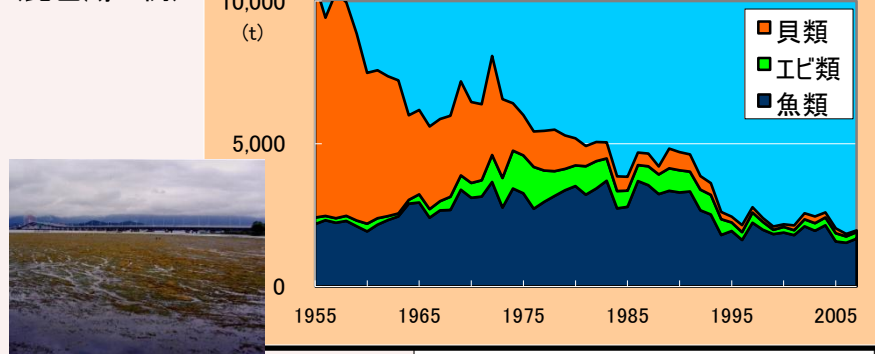
②利水障害:異臭味・濾過障害の発生、消毒副生成物等

③人との関わりの希薄化:親水機会の減少、景観の悪化等

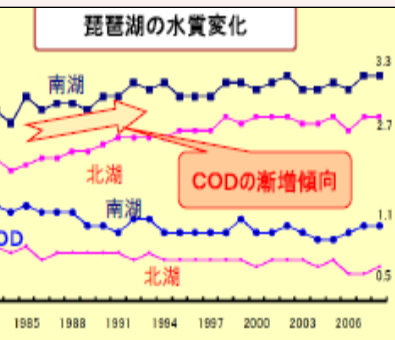
一部の湖沼では、さらなる水質改善が望めない。

(琵琶湖の下水処理・浄化槽の普及率90%,高度処理普及率83%)

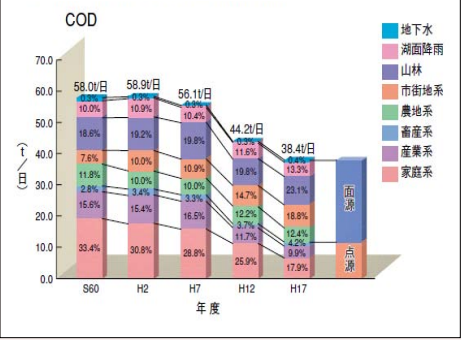
湖沼の現状と課題
(琵琶湖の例)



琵琶湖の水草の繁茂



琵琶湖の負荷量の経年変化



目標設定

水質保全目標の検討
新たな水質指標
(底層DO、透明度、TOC等)
各湖沼の個別指標
(在来種率、漁獲量、湖水浴者数等)

原因究明

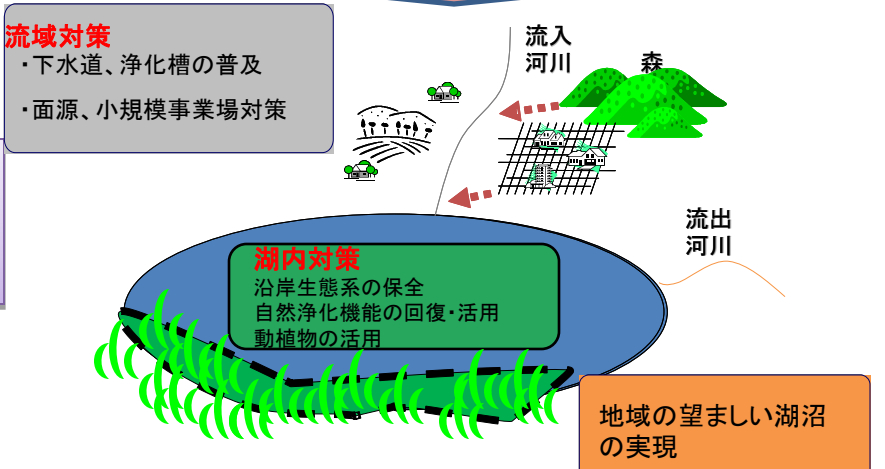
汚濁メカニズムの解明

- ・難分解性有機物
- ・N/P比と植物プランクトンの関係
- ・内部生産
- ・底質環境、底泥からの溶出
- ・物質収支
- ・流入物質の分析

【新たな水質保全対策の検討】

- 流域対策(面源対策、小規模事業場対策)
- 湖内対策(沿岸生態系の保全、自然浄化機能の回復・活用、動植物の活用)

課題の解決



地域の望ましい湖沼の実現
平成23年度の湖沼水質保全特別措置法の見直し

5. 水環境保全のための今後の取組 (3)閉鎖性水域における水質改善(海域)

総量削減

現状

- 閉鎖性海域に流入する汚濁負荷量は着実に削減
- 水質汚濁の状態だけでなく望ましい水環境の状態を直接的に表す指標、地域住民に分かりやすい指標が必要

今後の取組

第7次総量削減等の着実な推進

- ・第7次総量削減の在り方について答申(平成21年度中予定)
- ・総量規制基準の設定方法について諮問、答申
- ・各汚濁負荷削減対策、干潟・藻場の保全・再生等の推進

閉鎖性海域中長期ビジョン

- ・閉鎖性海域が今後目指すべき水環境の目標
- ・目標を達成するための中長期シナリオ及びロードマップ

閉鎖性海域のあるべき姿

底層DO

- ・広く水生生物(特に底生生物)の生息に影響を与える主要な要素の一つ

透明度

- ・水生植物の生育など浅海域における良好な環境条件を示す
- ・景観的な要素も示す

環境基準化

底層DO

- ・魚介類の生息域の確保のための目標
- ・魚介類の再生産の場の確保のための目標
- ・無生物域の解消のための目標

透明度

- ・海藻草類の生育に必要な目標
- ・親水利用からみた目標

栄養塩類管理方策検討

現状

海中の栄養塩バランスが損なわれ、赤潮や貧酸素水塊が頻発する海域や海苔の色落ち等の障害が生じている海域が見られる

今後の取組

①物質循環量把握

- ・栄養塩類の発生負荷量調査
- ・地域吸収量、蓄積、流出状況調査
- ・海藻草類等吸収源の増殖と回収試験
- ・バイオマス利用促進について検討

②物質収支モデルの構築

- ・地域の栄養塩類循環状況を再現
- ・栄養塩類循環に及ぼす要因の抽出



③影響評価手法の開発

- ・円滑な栄養塩類循環のための診断、評価手法の検討
- ・効果的な対策案の検討

生物生産力と多様性の高い海域の構築